

令和2年度和歌山県文化功労賞

小山 譽城

住 所 和歌山県和歌山市

出 身 地 和歌山県御坊市

生 年 昭和25年

◎ 業績及び経歴

昭和25年御坊市に生まれる。昭和50年國學院大學大学院修士課程を修了。同年、和歌山県立学校教員となる。

大学在学中より幕府から徳川御三家に付けられた家老である付家老（紀州藩の安藤家・水野家、尾張藩の成瀬家・竹腰家、水戸藩の中山家の五家）について研究を続け、その成り立ち、領内支配の実態、藩内での位置、幕府との関係などを解明し、幕藩体制下における御三家付家老の存在意義を明らかにするとともに、徳川御三家がどのようにして成立したかについても新たな視点から実証した。その成果は平成18年に研究書『徳川御三家付家老の研究』として刊行され、平成19年には國學院大學から歴史学博士の学位が授与された。平成23年には幕府と紀州藩の関係、紀州藩の支配、家臣団の動向などについて論じた研究書『徳川将軍家と紀伊徳川家』を刊行している。

研究と並行して、昭和50年から4年間、和歌山県古文書調査員として本宮・新宮・那智・高野山地域の古文書調査に従事。その後は和歌山県教育史、和歌山市史、海南市史、御坊市史、田辺市史など多くの自治体史の編纂委員等を務める。

また、高等学校社会科教員として、県内の社会科教育の充実と教員の力量と資質向上を目指して、県高等学校社会科研究協会の副会長等を6年間務め、社会科教育の発展にも尽力した。こうした活動の中で、昭和63年には県教育委員会から教育研究奨励賞、平成11年には和歌山県文化財研究会から表彰状が贈られたほか、その業績により平成26年には御坊市文化賞を受賞されている。

付家老研究という本県の歴史の紐を解き明かす分野に独自の視点から切り込み、研究成果を書籍や講演等で広く人々に伝えてきた永年の活動は、本県の歴史学において意義深く、功績は誠に多大である。

■ 現 在

- 和歌山信愛大学非常勤講師
- 和歌山信愛女子短期大学非常勤講師

◆ 主な表彰歴等

- 昭和63年 和歌山県教育委員会教育研究奨励賞
- 平成26年 御坊市文化賞